

令和 3 年 10 月 5 日

ワークショップについて

氏名 山田 久美子

1 日 時 令和 3 年 9 月 28 日 (火) 14:00~16:45

2 会 場 黒崎市民会館

3 参加者属性 (該当する所属を○で囲む)

○ 公民館運営審議会委員

○ 図書館協議会委員

○ ユースアドバイザー

社会福祉協議会職員

4 意見交換を行った活動事例

・活動を続けるために必要な要素についての意見交換を行い、具体的な事例への発展は難しかった。

5 社会教育委員として、ワークショップを運営して感じたこと

- ・事例発表をさせていただいて会の活動を知ってもらう機会になり、非常に良かった。会員も喜んでくれた。
- ・全体のアイスブレイクが終わってからグループワークの説明をし、グループワークに入ったが、アイスブレイク → グループワークの流れは、途切れさせないほうがスムーズだったように思う。
- ・「事業案」というゴールはハードルが高かったようだ。
- ・ファシリテーターの意見の集約が素晴らしいと思った。
- ・感染対策をとりながら行うグループワークの手法として、参考になった。

6 次世代育成につなげるための課題

- ・事例研究の対象世代は「小・中学生」「高校生」を対象にした事業で検討したのだが、ワークショップの参加者にユースアドバイザーが入ることを当初から想定していたのなら、青年層を対象とした何かを加えるべきだった。ユースアドバイザーの皆さんにとっては、得るものが少なかったのではないか。
- ・ワークショップの本番前に、文書による周知だけではなく、委員が顔を合わせた打ち合わせ、情報共有が必要だったのではないかと思う。

7 課題の解決策、ヒント

- ・社会教育関係者が集まって、顔を合わせて、意見交換をする機会は久々だった。ウイルス感染対策をとりながら行うイベントの手法として、参加者にも大いに参考になったのではないか。